

II 内部環境分析

1. 当センターの収支状況

当センターの経営状況を2017年度から2019年度の3カ年の推移より確認する。

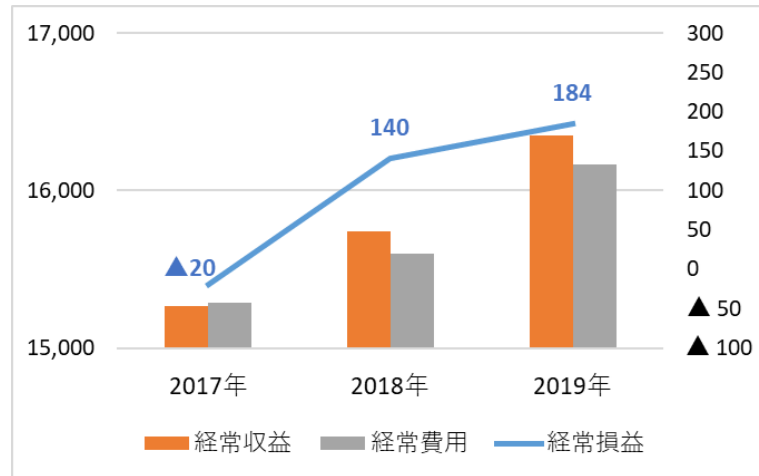
図表 3カ年収支推移状況（単位：千円）

勘定科目	2017年度		2018年度		2019年度	
	金額	医業収益 比率	金額	医業収益 比率	金額	医業収益 比率
営業収益	15,164,008	110%	15,594,176	109%	16,256,211	108.8%
医業収益	13,848,029	100%	14,264,535	100%	14,936,250	100.0%
入院診療収益	10,331,684	75%	10,622,616	74%	11,020,266	73.8%
外来診療収益	3,233,361	23%	3,369,064	24%	3,647,983	24.4%
その他医業収益	282,984	2%	272,855	2%	268,001	1.8%
運営費負担金収益	1,081,594	8%	1,084,679	8%	1,091,696	7.3%
営業外収益	100,460	1%	142,564	1%	90,758	0.6%
臨時利益	169,506	1%	0	0%	0	0.0%
収益計	15,433,975	111%	15,736,740	110%	16,346,969	109.4%
営業費用	15,264,274	110%	15,530,556	109%	16,148,567	108.1%
医業費用	14,650,822	106%	14,826,912	104%	15,396,637	103.1%
給与費	7,506,392	54%	7,586,501	53%	7,621,629	51.0%
材料費	4,078,288	29%	4,217,328	30%	4,511,409	30.2%
経費	2,031,269	15%	1,983,528	14%	2,088,348	14.0%
減価償却費	986,222	7%	986,541	7%	1,125,896	7.5%
その他営業費用	613,453	4%	703,643	5%	751,930	5.0%
営業外費用	19,915	0%	66,016	0%	14,041	0.1%
臨時損失	12,114	0%	24,678	0%	26,930	0.2%
費用計	15,296,303	110%	15,621,249	110%	16,189,538	108.4%
営業損益	▲ 100,266	-1%	63,620	0%	107,644	0.7%
経常損益	▲ 19,721	0%	140,169	1%	184,361	1.2%
損益	137,672	1%	115,491	1%	157,431	1.1%

(ア) 損益

- ・ 経常損益について、2017年度においては赤字であるものの、2018年度以降は営業収益の増加により黒字に好転し、さらに2019年度には、営業費用の伸び以上に営業収益が増加したため、経常損益が184百万円の黒字となっている。

図表 3 ヲ年経常収支状況（単位：百万円）



- ・ しかしながら経常損益の医業収益比率は 1.2%であり、適正利益率 3～5%（※）を大きく下回っている。

※福祉医療機構（WAM）2018 年度の医療法人経営状況、黒字法人の事業収益対事業利益率は 3.4%（n=938）

（イ） 収益

- ・ 2017 年度から 2019 年度にかけて入院収益 689 百万円/年ならびに外来収益 414 百万円/年の増加していることが、費用の増加に比べて医業収益の増加により、経常損益が黒字に好転している。
- ・ 2019 年度における入院収益ならびに外来収益の医業収益比率を見ると、入院収益 73.8%、外来収益 24.4%となっている。今後の医業収益の増加への取組には、外来収益の増加策に比べ入院収益の増加策を優先した方が効率的である。

（ウ） 費用

- ・ 2017 年度から 2019 年度にかけて給与費の医業収益比率は、54%から 51%へ減少傾向にある。
- ・ 2018 年度から 2019 年度にかけて大きく変動している部分として、電子カルテの更新に係る減価償却費の増加が挙げられる。

2. 当センターにおける入院稼働実績と目標値

① 直近7ヵ年の入院稼働実績の推移

2013年度から2019年度における入院稼働実績ならびにKPI指数の推移は以下の通りである。

図表 直近7ヵ年の入院稼働実績ならびにKPI指数の推移

年度			年間稼働額	1日稼働額	病床利用率	1月新規入院患者数	1日平均新規入院	在院患者数	1日平均患者数	回転率	入院単価
			百万円/年	百万円/日	%	人/月	人/日	人/年	人/日	日/人	円/人・日
2013-2019		平均値	10,180.80	27.9	80.5%	913	30	144,157	424.3	14.2	65,684
年度	月	診療日数	年間稼働額	1日稼働額	利用率	1月新規入院患者数	1日平均新規入院	在院患者数	1日平均患者数	回転率	入院単価
	単位	日/年	百万円/年	百万円/日	%	人/月	人/日	人/年	人/日	日/人	円/人・日
2013年度	12	365	9,447.50	25.9	79.2%	916	30	141,573	388	13.9	62,034
2014年度	12	365	9,632.90	26.4	79.0%	961	32	141,242	387	13.2	63,280
2015年度	12	366	10,063.30	27.5	80.4%	915	30	144,255	394	14.1	64,823
2016年度	12	365	10,157.80	27.8	78.7%	917	30	140,710	386	13.8	66,953
2017年度	12	365	10,341.60	28.3	80.8%	894	29	144,548	396	14.5	66,588
2018年度	12	365	10,584.60	29.0	81.6%	876	29	145,905	400	14.9	67,686
2019年度	12	366	11,037.91	30.2	84.1%	912	30	150,864	412	14.8	68,217

- ・ 2013年度から2019年度にかけて、年間入院稼働額は年々増加傾向にあり、2019年度には近年では高水準の11,038百万円となった。
- ・ 2019年度における主な要因は、病床利用率は84.1%（1日平均入院患者数は412人/日）、入院診療単価は68,217円と近年では高水準な実績であった。
- ・ また、新規入院患者数は2018年度が最も低い実績であったが、2019年度は月平均912人/月まで回復している。回転率は14.8日とやや長い結果であった。
- ・ 入院稼働額の更なる増収には、新規入院患者数の増加を図り、入院診療単価および病床利用率を向上させることが求められる。

② 入院稼働額と KPI 指数の目標値と効果試算

(ア) 病床利用率の目標値は 90%

当院における各病棟の看護職員の配置数は病床数に対して看護職員数を配置している。病床数に対しての給与費の支出が掛かっているという観点より、より高水準での病床数に対しての病床利用率が求められるため、目標病床利用率は 90% が望ましいと考えられる。※診療報酬請求上は患者数に対して看護職員数の配置が問われる。

(イ) 新規入院患者数の目標値は 973 人/月

病床利用率 90% (目標値) を維持しながら回転率 13.8 日/人 (2013-2019 年度実績平均値) に必要な新規入院患者数は 973 人/月となる (下表参照)。2019 年度実績と比較すると 1 月平均+61 人の新規入院患者数の増加が必要となる。

(ウ) 入院診療単価の目標値は 70,000 円/人・日

新規入院患者数の受入れ増加をさせながら回転率の維持・向上に努めることや、高度な医療機能の拡大に伴う重症度の高い患者の安定した受入れを行うことにより、入院診療単価 70,000 円/人・日を目指す。

図表 入院稼働額ならびに KPI 指数の目標値

年度			年間稼働額	1日稼働額	利用率	1月新規入院患者数	1日平均新規入院	在院患者数	1日平均患者数	回転率	入院単価
			百万円/年	百万円/日	%	人/月	人/日	人/年	人/日	日/人	円/人・日
2013-2019			8,908.20	24.4	80.5%	913	30	144,157	424.3	14.2	65,684
年度	月	診療日数	年間稼働額	1日稼働額	利用率	1月新規入院患者数	1日平均新規入院	在院患者数	1日平均患者数	回転率	入院単価
	単位	日/年	百万円/年	百万円/日	%	人/月	人/日	人/年	人/日	日/人	円/人・日
2013年度	12	365	9,447.50	25.9	79.2%	916	30	141,573	388	12.9	62,034
2014年度	12	365	9,632.90	26.4	79.0%	961	32	141,242	387	12.3	63,280
2015年度	12	366	10,063.30	27.5	80.4%	915	30	144,255	394	13.1	64,823
2016年度	12	365	10,157.80	27.8	78.7%	917	30	140,710	386	12.8	66,953
2017年度	12	365	10,341.60	28.3	80.8%	894	29	144,548	396	13.5	66,588
2018年度	12	365	10,584.60	29.0	81.6%	876	29	145,905	400	13.9	67,686
2019年度	12	366	11,037.91	30.2	84.1%	912	30	150,864	412	13.8	68,217
目標値			12,084.47	33.1	90%	973	32	160,965	441	13.8	70,000
			増収		目標値	増加	増加		増加	実績値	増加

(エ) KPI 指数達成時の財務諸表における効果試算

病床利用率 90%に目標設定すると、年間稼働額は 12,084 百万円となり、その場合の経常損益は 549 百万円であり、医業収益比率は 2019 年度実績の 1.2%から 3.4%へと好転する。

図表 財務諸表における入院診療収益の目標値 (千円/年)

勘定科目	目標値	
	金額	医業収益比率
営業収益	17,320,419	108.2%
医業収益	16,000,458	100.0%
入院診療収益	12,084,474	75.5%
外来診療収益	3,647,983	22.8%
その他医業収益	268,001	1.7%
運営費負担金収益	1,091,696	6.8%
営業外収益	90,758	0.6%
臨時利益	0	0.0%
収益計	17,411,177	108.8%
営業費用	16,848,604	105.3%
医業費用	16,096,675	100.6%
給与費	8,000,229	50.0%
材料費	4,832,847	30.2%
経費	2,088,348	13.1%
減価償却費	1,125,896	7.0%
その他営業費用	751,930	4.7%
営業外費用	14,041	0.1%
臨時損失	20,000	0.1%
費用計	16,882,646	105.5%
営業損益	471,815	2.9%
経常損益	548,531	3.4%
損益	528,531	3.3%

3. 診療科別の入院稼働実績の推移と目標値

2017年度から2019年度の3ヵ年における各診療科の新規入院患者数、入院延患者数（退院患者含む）は以下の通りである。

経営の健全化を図るためには、更なる入院稼働額の向上が必要であり、病床利用率90%を達成することが望ましい。そのためには、新規入院患者数の目標値973人/月に増加させる必要がある。尚、この目標値を2019年度の各診療科の実績に基づき、診療科毎に分配を行った。

図表 診療科別の新規入院患者数、入院延患者数の実績と目標値（人/月、人/日）

		1月当たりの新規入院患者数（人/月）						1日当たり入院延患者数（人/日）					
		2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度		目標値		2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度		目標値	
				実績値	構成比率	患者数	実績との差			実績値	構成比率	患者数	実績との差
1	整形	107	99	105	11.6%	113	7	75	79	79	17.8%	84	5
2	外科	100	110	105	11.5%	112	7	45	52	45	10.1%	48	3
3	循環内	76	75	73	8.0%	78	5	36	34	35	8.0%	38	2
4	産科	64	65	72	7.9%	77	5	24	26	28	6.2%	30	2
5	消内	67	62	67	7.4%	72	5	36	32	35	8.0%	38	2
6	婦人科	66	56	57	6.3%	61	4	14	13	13	3.0%	14	1
7	泌尿器	60	59	54	6.0%	58	4	20	21	17	3.8%	18	1
8	小児科	51	48	47	5.1%	50	3	7.0	7.8	7.5	1.7%	8	1
9	眼科	36	40	45	5.0%	49	3	5.8	6.8	7.3	1.6%	8	1
10	耳鼻科	37	41	43	4.8%	46	3	23	19	18	4.0%	19	1
11	脳外科	42	44	40	4.4%	43	3	26	28	27	6.1%	29	2
12	脳内	35	31	35	3.8%	37	2	23	20	23	5.2%	25	2
13	血内	26	25	31	3.4%	33	2	24	28	33	7.5%	36	2
14	新生児	26	25	30	3.3%	32	2	21	20	24	5.3%	25	2
15	形成	35	33	29	3.2%	31	2	21	18	19	4.2%	20	1
16	歯科	17	13	18	2.0%	19	1	4	3	3	0.7%	3	0
17	内科	6	6	13	1.5%	14	1	3.3	3.8	8.2	1.9%	9	1
18	内分泌	14	14	12	1.3%	13	1	6.6	7.0	6.0	1.3%	6	0
19	皮膚科	7	8	11	1.2%	11	1	1.2	1.5	2.6	0.6%	3	0
20	児外科	12	10	10	1.1%	11	1	2.2	1.9	2.2	0.5%	2	0
21	救急科	8	10	8	0.9%	9	1	5	5	6	1.3%	6	0
22	腎内	0	0	4	0.5%	4	0	0	0	2	0.5%	2	0
23	心外科	2	2	2	0.2%	2	0	3.0	2.8	2.3	0.5%	2	0
24	神経科	0.6	0.4	0.5	0.1%	1	0	0.0	0.4	0.1	0.0%	0	0
25	呼吸器	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0.0%	0	0
26	麻酔科	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0.0%	0	0
	合計	894	876	912	100.0%	973	62	425	428	442	100.0%	473	31

① 整形外科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額
入院稼働額 (千円)	整形	1,866,996	1,905,104	2,031,580	1,611

入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
75	79	79	107	99	105	18.2	19.4	18.7

入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
68,007	66,373	70,590	93,945	91,460	102,349

入院症例別件数・上位10位 (人/年)	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)	2018年	2019年
股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む。)	206	201	221	人工関節置換術 (膝)	280	359
膝関節症 (変形性を含む。)	144	187	239	人工関節置換術 (股)	242	256
股関節・大腿近位の骨折	96	75	87	骨折親血的手術 (前腕)	57	67
その他	89	86	74	骨内異物 (挿入) 除去術 (前腕)	59	61
前腕の骨折	58	73	51	関節脱臼非親血的整復術 (小児)	50	55
肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む。)	66	57	57	骨折親血的手術 (大腿)	43	44
足関節・足部の骨折・脱臼	51	43	40	関節鏡下手根管開放手術	68	42
手関節周辺の骨折・脱臼	47	33	44	骨内異物 (挿入) 除去術 (下腿)	46	38
肘関節周辺の骨折・脱臼	37	34	40	骨折親血的手術 (下腿)	35	33
四肢筋腱損傷	30	30	37	骨折非親血的整復術 (前腕)	46	30

現状分析

- ・ 整形外科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向にあり、2019年度には前年度と比較して+126百万円増加している。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院診療単価+4,217円の増加(新規入院患者数+6人/月、入院手術料+10,889千点の影響)が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「筋骨格系及び結合組織の疾患」ならびに「損傷、中毒及びその他の外因の影響」疾患の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2045年の疾患別患者構成割合を見ると、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は11.8%、「筋骨格系及び結合組織の疾患」は5.1%と高い構成割合を示すことが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「外傷・熱傷・中毒」の当センターの患者シェアは山口・防府医療圏においては1位、診療圏においては2位、山口県内においては4位となっている。
- ・ 一方、「筋骨格系疾患」の患者シェアは、山口・防府医療圏では4位、診療圏では5位、山口県内では9位にとどまっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は113人(+7人/月)、1日平均入院延患者数は84人(+5人/日)

② 外科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額	
入院稼働額（千円）	外科	1,299,903	1,407,136	1,329,476	1,057	
入院延患者数（人/日）		新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）	
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
45	52	45	100	110	105	
			2017年	2018年	2019年	
			12.3	13.0	11.6	

入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
78,639	73,978	81,618	58,093	57,013	58,261

入院症例別件数・上位10位（人/年）	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）	2018年	2019年
乳房の悪性腫瘍	158	181	153	静脈瘤切除術	69	100
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	73	79	113	四肢の血栓除去術	81	84
肺の悪性腫瘍	118	117	91	腹腔鏡下胆嚢摘出術	111	82
静脈・リンパ管疾患	44	67	88	乳腺悪性腫瘍術	90	79
胃の悪性腫瘍	69	85	82	ステントグラフト内挿術	56	70
閉塞性動脈疾患	43	74	79	結腸切除術／腹腔鏡下結腸切除術等	66	65
非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	91	52	68	肺悪性腫瘍手術	33	38
食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	47	35	62	腹膜炎手術	17	25
ヘルニアの記載のない腸閉塞	60	48	57	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	36	24
直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	50	41	48	直腸切除・切断術／腹腔鏡下直腸切除・切断術	15	22

現状分析

- 外科における入院稼働額は2017年度から2018年度をピークにして2019年度まで増加傾向である。詳細を確認すると、2018年度には前年度差+107百万円/年増加しているものの、2019年度はやや減少し、前年度比較では▲78百万円の減少を示している。
- その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院診療単価+7,640円の増加（入院手術料+1,248千点の影響）しているものの、入院延患者数は▲7人/日減少していることが入院稼働額のやや減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- 入院医療需要において「消化器系の疾患」ならびに「呼吸器系の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。特に、「呼吸器系疾患」の2045年における増減率7.0%と全疾患中最も増加する見込みとなっている。
- 入院医療需要推移における2045年の疾患別患者構成割合を見ると、「呼吸器系疾患」は7.2%、「消化器系疾患」は4.0%と上位の構成割合を示すことが予測される。
- 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「消化器系疾患、肝臓・胆

道・膀胱疾患」の当センターの患者シェアは山口・防府医療圏においては4位、診療圏においては5位、山口県内においては10位にとどまっている。

- ・ また、「呼吸器系疾患」の患者シェアは、山口・防府医療圏では3位、診療圏で4位、山口県内では9位にとどまっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は112人（+7人/月）、1日平均入院延患者数は48人（+3人/日）

③ 循環器内科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額	
入院稼働額（千円）	循内	1,092,787	1,171,025	1,155,103	1,320	
入院延患者数（人/日）		新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）	
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
36	34	35	76	75	73	
			2017年	2018年	2019年	
			12.5	12.3	13.4	

入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
84,067	93,772	89,204	47,785	53,648	52,507

入院症例別件数・上位10位（人/年）	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）	2018年	2019年
狭心症、慢性虚血性心疾患	250	228	235	経皮的冠動脈ステント留置	189	192
心不全	208	190	156	経皮的カテ心筋焼灼術	120	124
頻脈性不整脈	85	142	143	ペースメーカー移植術/交換等	69	64
徐脈性不整脈	57	61	66	経皮的冠動脈形成術	13	23
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	69	78	61	植込型除細動器移植術/交換等	18	15
肺高血圧性疾患	33	20	31	経皮的肺動脈形成術	3	10
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	18	21	22	大動脈バルーン法（初回/2日目以降）	71	7
解離性大動脈瘤	10	14	14	体外ペースメーカー移植術	12	5
肺炎等	38	18	13	内シャント設置術	5	5
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	9		12	経皮的心肺補助法（初日/2日目以降）	8	4

現状分析

- ・ 循環器内科における入院稼働額は 2017 年度から 2018 年度をピークに 2019 年度まで増加傾向にある。詳細を確認すると、2018 年度にかけて +78 百万円増加したものの、2019 年度はやや減少し、前年度比較では▲16 百万円の減少となっている。
- ・ その要因として 2019 年度の各 KPI 実績を前年度と比較すると、入院診療単価▲4,568 円の減少（新規入院患者数はほぼ横ばいで推移、入院手術料▲1,140 千点の影響）が入院稼働額のやや減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「循環器系の疾患」の増加率は 2030 年をピークに、2045 年まで増加する予測となっている。2020 年と比較した 2045 年の増減率は 6.3%と高水準で増加する見込みとなっている。「循環器系の疾患」の 2045 年の疾患別患者構成割合は 19.7%と最も高い構成割合を示すことが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「循環器系疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏においては 2 位、診療圏においては 3 位、山口県内においては 7 位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は78人（+5人/月）、1日平均入院延患者数は38人（+2人/日）

④ 産科

診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額			
入院稼働額（千円）		産科	496,696	534,189	560,282	648		
入院延患者数（人/日）			新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
24	26	28	64	65	72	15.3	16.4	17.4
入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）					
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年			
57,836	55,790	55,479	6,377	5,856	5,963			
分娩数（件/年）			不妊症患者数（人/年）			体外受精患者数（人/年）		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
681	615	642	213	202	228	121	101	83

入院症例別件数・上位10位（人/年）	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）	2018年	2019年
分娩	327	289	392	帝王切開術	162	172
胎児及び胎児付属物の異常	173	153	154	子宮頸管縫縮術	46	51
早産、切迫早産	79	92	96	吸引娩出術	43	32
分娩の異常	64	100	56	卵管結紮術	16	20
その他	21	15	51	会陰腔壁裂創縫合	43	11
妊娠高血圧症候群関連疾患	39	22	35	鼻腔粘膜焼灼術	0	3
妊娠合併症等	12	17	24	腔壁尖圭コンジローム切除術	1	2
産褥期を中心とするその他の疾患	24	23	16	子宮頸管ポリープ切除術	0	2
前置胎盤及び低置胎盤	3	9	12	開腹/腹腔鏡下子宮筋腫摘出	1	2
妊娠早期の出血	12	24	11	流産手術	4	2

現状分析

- 産科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向にあり、2019年度には前年度と比較して+26百万円増加している。
- その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数+2人/日の増加（新規入院患者数+7人/月、平均在院日数+1.0日の影響）が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- 入院医療需要において「妊娠、分娩及び産じょく」ならびに「周産期に発生した病態」の増減率は2020年から2045年にかけて減少傾向であり、2045年には2020年と比較してそれぞれ▲21%、▲22%の減少となることが予測される。
- それぞれの2045年における疾患別患者構成割合を見ると、「妊娠、分娩及び産じょく」は0.6%、「周産期に発生した病態」は0.2%の構成割合となることが予測される。

- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩」は当センターの患者数上位疾患となっている。
- ・ 本疾患の患者シェアの状況としては、山口・防府医療圏においては2位、診療圏においては3位、山口県内においては5位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は77人（+5人/月）、1日平均入院延患者数は30人（+2人/日）

⑤ 消化器内科

診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額				
入院稼働額（千円）		599,730	548,561	616,626	765				
入院延患者数（人/日）		新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）				
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
36	32	35	67	62	67	15.2	14.4	14.5	
入院診療単価（円/人・日）		入院手術料（千点/年）							
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年				
45,290	47,302	47,845	9,120	7,824	9,102				
入院症例別件数・上位10位（人/年）			2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）		2018年	2019年
胆管（肝内外）結石、胆管炎			112	107	112	内視鏡的大腸ポリープ		259	261
膵臓、膵臓の腫瘍			62	59	98	内視鏡的胆道ステント留置術		66	89
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）			91	97	74	内視鏡的乳頭切開術		68	74
胃の悪性腫瘍			38	30	42	内視鏡的消化管止血術		41	44
肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）			30	32	42	血管塞栓術（腹腔内）		37	26
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍			22	37	34	内視鏡的胆道結石除去術		11	25
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患			37	27	32	小腸結腸内視鏡的止血術		15	24
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）			17	24	26	経皮的胆管ドレナージ術		3	19
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）			32	28	22	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術		23	18
肺炎等			31	29	19	内視鏡胃粘膜下層剥離術		11	11

現状分析

- 消化器内科における入院稼働額は2017年度と比較して2018年度は▲51百万円減少したものの、2019年度には前年度と比較して+68百万円増加している。
- その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数+3人/日の増加（新規入院患者数+5人/月の影響）ならびに入院診療単価+543円の微増（新規入院患者数+5人/月、入院手術料+1,278千点の影響）が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- 入院医療需要において「消化器系の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は1.3%増加する見込みとなっている。
- 「消化器系の疾患」の2045年における疾患別患者構成割合は4.0%となることが予測される。
- 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、当センターの患者数が最も多い疾患は「消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患」となっているものの、患者シェアでは山口・防府医療圏においては4位、診療圏においては5位、山口県内においては10位に留まっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は72人（+5人/月）、1日平均入院延患者数は38人（+2人/日）

⑥ 婦人科

		診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額		
入院稼働額 (千円)		婦人科	321,976	325,193	309,438	452		
入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
14	13	13	66	56	57	8.4	8.7	8.8
入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)					
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年			
64,823	66,981	63,228	11,443	12,291	10,995			
入院症例別件数・上位10位 (人/年)			2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)		
その他			299	172	210	開腹/腹腔鏡下子宮全摘術		
子宮頸・体部の悪性腫瘍			120	148	142	子宮付属器腫瘍摘出術		
子宮の良性腫瘍			64	66	72	子宮内膜掻爬術		
卵巣の良性腫瘍			49	48	34	流産手術		
卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍			70	38	31	開腹/腹腔鏡下子宮筋腫摘出		
生殖器脱出症			32	29	31	子宮脱手術		
流産			23	33	30	子宮頸部(腔部)切除術		
小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍			17	16	23	子宮悪性腫瘍手術(開腹/腹腔鏡)		
子宮内膜症			26	27	22	子宮頸管ポリープ切除術		
女性性器のポリープ			23	18	20	子宮付属器悪性腫瘍手(両側)		
						2018年	2019年	

現状分析

- ・ 婦人科における入院稼働額は 2017 年度と比較して 2018 年度は+3 百万円微増したものの、2019 年度には前年度と比較して▲16 百万円の減少となっている。
- ・ その要因として 2019 年度の各 KPI 実績を前年度と比較すると、入院診療単価▲3,753 円の減少(入院手術料▲1,296 千点の影響)が入院稼働額の減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「腎尿路生殖器系の疾患」の増加率は 2030 年をピークに、2045 年まで増加する予測となっている。2020 年と比較した 2045 年の増減率は 4.3%%増加する見込みとなっている。
- ・ 2045 年における本疾患の疾患別患者構成割合は 3.8%となることが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩」は当センターの患者数上位疾患となっている。
- ・ 「女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩」の患者シェアは山口・防府医療圏においては 2 位、診療圏においては 3 位、山口県内においては 5 位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は61人（+4人/月）、1日平均入院延患者数は14人（+1人/日）

⑦ 泌尿器科

		診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額			
入院稼働額 (千円)		泌尿器		393,487	416,627	358,321	551			
入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)				
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年		
20	21	17	60	59	54	9.1	9.9	8.9		
入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)							
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年					
54,788	55,329	57,775	10,436	10,596	9,983					
入院症例別件数・上位10位 (人/年)				2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)		2018年	2019年
膀胱腫瘍				142	145	139	膀胱悪性腫瘍術 (経尿道)		80	70
前立腺の悪性腫瘍				147	143	136	経尿道的尿路結石除去術		42	52
上部尿路疾患				106	84	83	経尿道的レーザー前立腺切除術		24	40
腎臓又は尿路の感染症				74	60	67	体外衝撃波腎・尿管結石破砕一連		52	32
前立腺肥大症等				42	28	43	腹腔鏡下腎 (尿管) 悪性腫瘍手		21	23
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全				11	67	39	内シヤント設置術		41	20
腎盂・尿管の悪性腫瘍				29	22	29	膀胱結石摘出術 経尿道の手術		11	16
腎腫瘍				25	28	28	膀胱内凝血除去術		16	13
下部尿路疾患				13	26	27	経尿道的電気凝固術		5	7
男性生殖器疾患				32	37	24	膀胱悪性腫瘍全摘回腸結腸導管/尿路変更なし		10	7

現状分析

- ・ 泌尿器科における入院稼働額は2017年度と比較して2018年度は+23百万円増加したものの、2019年度には前年度と比較して▲58百万円の減少となっている。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数▲4人/日の減少（新規入院患者数▲5人/月、平均在院日数▲1.0日の影響）が入院稼働額の減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「腎尿路生殖器系の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は4.3%増加する見込みとなっている。
- ・ 2045年における本疾患の疾患別患者構成割合は3.8%となることが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患」は当センターの患者数上位疾患となっている。
- ・ 本疾患の患者シェアは山口・防府医療圏においては2位、診療圏においては3位、山口県内においては5位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は58人（+4人/月）、1日平均入院延患者数は18人（+1人/日）

⑧ 小児科

		診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額		
入院稼働額（千円）		小児科	129,596	152,772	147,103	263		
入院延患者数（人/日）			新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
7.0	7.8	7.5	51	48	47	4.3	5.2	5.4
入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）					
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年			
50,446	53,642	53,570	107	119	66			

入院症例別件数・上位10位（人/年）	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）	2018年	2019年
食物アレルギー	208	181	186	鼓膜切開術	0	4
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	81	67	68	腸重積症整復術	7	3
喘息	32	50	42	内視鏡的食道異物摘出術	0	2
ウイルス性腸炎	24	39	34	中心静脈注射用植込型カテ	0	1
上気道炎	23	16	26	気管切開術	1	0
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	21	21	22	リンパ節摘出術	1	0
川崎病	9	18	21	経皮的内視鏡下胃瘻造設術	1	0
肺炎等	24	15	19			
腎臓又は尿路の感染症	8	12	18			
熱性けいれん	5	15	17			

現状分析

- 小児科における入院稼働額は2017年度から2018年にかけて増加したものの、2019年度では前年度差▲6百万円の減少（入院延患者数▲0.3人/日の影響）となっている。

今後の目標値

- 1月平均新規入院患者数は50人（+3人/月）、1日平均入院延患者数は8人（+1人/日）

⑨ 眼科

診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額					
入院稼働額（千円）	眼科	159,646	181,081	195,770	360					
入院延患者数（人/日）			新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）				
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年		
5.8	6.8	7.3	36	40	45	5.6	8.4	9.3		
入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）							
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年					
74,881	73,342	73,432	5,998	10,306	10,958					
入院症例別件数・上位10位（人/年）			2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）				
白内障、水晶体の疾患			320	355	398	水晶体再建術等			502	570
網膜剥離			36	42	38	網膜光凝固術			79	105
黄斑、後極変性			21	27	36	硝子体茎頭微鏡下離断術			97	97
緑内障			13	20	23	緑内障手術			18	23
糖尿病性増殖性網膜症			8	9	9	虹彩光凝固術			26	15
結膜の障害			13	6	7	結膜結石除去術			14	10
網膜血管閉塞症			7	3	7	涙嚢切開術			0	7
眼瞼、涙器、眼窩の疾患				6	4	角膜・強膜異物除去術			6	7
視神経の疾患			2	2	4	増殖性硝子体網膜症手術			7	7
硝子体疾患			3	5	3	霰粒腫摘出術			4	6

現状分析

- 眼科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向にあり、2019年度には前年度と比較して+15百万円の増加（入院延患者数+0.5人/日の影響）となっている。

外部環境分析

- 入院医療需要において「眼及び付属器の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は3.2%（構成割合0.5%）となる見込みである。周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「眼科系疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏ならびに診療圏においては2位、山口県内においては3位となっている。

今後の目標値

- 1月平均新規入院患者数は49人（+3人/月）、1日平均入院延患者数は8人（+1人/日）

今後の目標値

- 1月平均新規入院患者数は43人（+3人/月）、1日平均入院延患者数は29人（+2人/日）

⑩ 耳鼻咽喉科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額	
入院稼働額 (千円)	耳鼻科	477,692	396,144	386,453	743	
入院延患者数 (人/日)		新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)	
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
23	19	18	37	41	43	
			18.8	13.2	12.1	

入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
56,166	57,621	59,163	13,524	11,651	12,176

入院症例別件数・上位10位 (人/年)	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)	2018年	2019年
頭頸部悪性腫瘍	112	94	75	口蓋扁桃手術	126	129
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	35	46	51	内視鏡下鼻・副鼻腔手術／鼻茸摘出術	62	70
慢性副鼻腔炎	24	34	48	アデノイド切除術	49	42
睡眠時無呼吸	31	50	47	内視鏡下鼻中隔／鼻腔手術	33	37
扁桃、アデノイドの慢性疾患	23	44	47	リンパ節摘出術	15	19
滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	12	14	30	外耳道異物除去術	11	16
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	23	42	25	甲状腺部分切除術	8	15
突発性難聴	29	18	18	鼻腔粘膜焼灼術	14	14
前庭機能障害	10	18	17	遊離皮弁術	5	10
上気道炎	7	4	16	喉頭腫瘍摘出術 (直達鏡)	15	9

現状分析

- 耳鼻咽喉科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて減少傾向であり、2019年度は前年度と比較して▲10百万円減少している。
- その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、延患者数▲1人/日の減少（平均在院日数▲1.1日の影響）が入院稼働額の減少へ影響したことが考えられる。

外部環境分析

- 入院医療需要において「耳及び乳様突起の疾患」の増減率は2020年から2045年まで減少傾向となることが予測される。2020年と比較した2045年の増減率は▲5.3%減少する見込みとなっている。
- 2045年における本疾患の疾患別患者構成割合は0.1%となることが予測される。
- 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「耳鼻咽喉科系疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏においては2位、診療圏においては3位、山口県内においては5位となっている。

今後の目標値

- 1月平均新規入院患者数は46人（+3人/月）、1日平均入院延患者数は19人（+1人/日）

⑪ 脳神経外科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの 診療金額
入院稼働額 (千円)	脳外	827,972	870,197	745,669	1,557

入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
26	28	27	42	44	40	18.0	17.6	19.0

入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
86,319	85,759	76,112	35,215	33,626	24,175

入院症例別件数・上位10位 (人/年)	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)	2018年	2019年
非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	74	91	105	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	103	83
頭蓋・頭蓋内損傷	76	83	89	脳動脈瘤頸部クリッピング1箇	23	31
てんかん	45	33	42	水頭症手術 (シャント手術)	28	29
脳腫瘍	45	46	35	迷走神経刺激装置植込術	19	18
未破裂脳動脈瘤	71	70	31	慢性硬膜下血腫洗浄除去 (穿頭)	3	17
脳血管障害	35	37	28	脊髄ドレナージ術	23	17
パーキンソン病	19	23	25	気管切開術	20	14
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	38	41	23	頭蓋内腫瘍摘出術 (その他)	18	13
非外傷性硬膜下血腫	29	23	20	脳血管内手術 (脳血管内ステント)	46	13
水頭症	13	15	17	頭蓋骨形成手術 (頭蓋骨のみ)	12	12

現状分析

- ・ 脳神経外科における入院稼働額は2017年度と比較して2018年度は+42百万円増加したものの、2019年度には前年度と比較して▲125百万円の減少となっている。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院診療単価▲9,647円の減少（新規入院患者数▲4人/月、入院手術料▲9,450千点の影響）が入院稼働額の減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「神経系の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は4.3%と高水準で増加する見込みとなっている。
- ・ 「神経系の疾患」の2045年における疾患別患者構成割合は13.6%と構成割合上位の疾患となることが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「神経系疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏においては1位、診療圏においては2位、山口県内においては4位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は43人（+3人/月）、1日平均入院延患者数は29人（+2人/日）

⑫ 脳神経内科

	診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額
入院稼働額 (千円)	脳内	398,420	355,578	417,471	1,006

入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
23	20	23	35	31	35	18.0	17.4	19.0

入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千円/年)		
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
47,962	49,489	49,399	457	372	448

入院症例別件数・上位10位 (人/年)	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)	2018年	2019年
脳梗塞	249	194	212	気管切開術	5	5
てんかん	21	25	34	リンパ節摘出術 (長径 3 cm未満)	1	3
脳脊髄の感染を伴う炎症	14	15	19	経皮的内視鏡下胃瘻造設術	5	3
一過性脳虚血発作	15	4	16	四肢の血栓除去術	0	2
肺炎等	12	10	11	内視鏡的消化管止血術	0	2
誤嚥性肺炎	10	9	10	鼻骨骨折徒手整復術	0	1
免疫介在性・炎症性ニューロパチー	10	11	9	食道狭窄拡張術 (食道ブジー法)	0	1
腎臓又は尿路の感染症	5	3	6	植込型心電図記録計摘出術	0	1
パーキンソン病	2	5	6	内視鏡的大腸粘膜切除	1	1
敗血症	2	1	6	陥入爪手術	1	0

現状分析

- ・ 脳神経内科における入院稼働額は2017年度と比較して2018年度は▲43百万円減少したものの、2019年度には前年度と比較して+62百万円増加している。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数+3人/日の増加（新規入院患者数+4人/月、平均在院日数+1.6日の影響）が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「神経系の疾患」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は4.3%と高水準で増加する見込みとなっている。
- ・ 「神経系の疾患」の2045年における疾患別患者構成割合は13.6%と構成割合上位の疾患となることが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「神経系疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏においては1位、診療圏においては2位、山口県内においては4位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は37人（+2人/月）、1日平均入院延患者数は25人（+2人/日）

⑬ 血液内科

診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額				
入院稼働額（千円）		583,917	683,203	817,607	2,186				
入院延患者数（人/日）			新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）			
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
24	28	33	26	25	31	26.8	30.5	30.0	
入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）						
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年				
66,604	66,589	66,984	6,111	7,177	7,865				
入院症例別件数・上位10位（人/年）			2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）		2018年	2019年
非ホジキンリンパ腫			152	135	219	リンパ節摘出術（長径3cm未満）		4	8
急性白血病			40	42	55				
多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物			21	27	17				
肺炎等			21	18	12				
出血性疾患（その他）			6	5	11				
貧血（その他）			6	8	9				
再生不良性貧血			3	2	8				
骨髄異形成症候群			9	10	6				
その他の感染症（真菌を除く。）			2	3	5				
その他			1	4	4				

現状分析

- 血液内科における入院稼働額は2017年度から2019年度まで増加傾向にある。2019年度は前年度と比較して+134百万円増加している。
- その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数+5人/日の増加（新規入院患者数+6人/月の影響）と入院診療単価の+395円の微増（新規入院患者数+6人/月、入院手術料+688千点の影響）が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- 入院医療需要において「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。2020年と比較した2045年の増減率は3.3%と高水準で増加する見込みとなっている。
- なお、2045年の「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」の疾患別患者構成割合は0.6%となることが予測される。
- 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「血液・造血器・免疫臓器の疾患」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏においては1位、診療圏および山口県内においては2位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は33人（+2人/月）、1日平均入院延患者数は36人（+2人/日）

⑭ 新生児科

診療科		2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額			
入院稼働額（千円）		新生児	510,123	484,265	637,920	1,772		
入院延患者数（人/日）		新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）			
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
21	20	24	26	25	30	21.8	22.8	21.6
入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）					
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年			
67,566	67,259	74,125	1,094	886	1,703			

入院症例別件数・上位10位（人/年）	2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位（件/年）	2018年	2019年
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	269	300	270	新生児仮死蘇生術	77	137
その他	26		69	網膜光凝固術	6	4
先天性心疾患（動脈管開存症、心房中隔欠損症を除く。）			3	経皮的内視鏡下胃瘻造設術	2	3
腸管の先天異常	1	3	2	脊椎披裂手術	0	1
動脈管開存症、心房中隔欠損症	2	1	2	水頭症手術	0	1
食道の先天異常	2		2	気管切開術	2	1
直腸肛門奇形、ヒルシュスブルグ病			2	口唇裂形成手術	0	1
染色体異常（ターナー症候群及びクラインフェルター症候群を除く。）	2	2	1	腹腔鏡下ヘルニア手術（臍）	0	1
先天性腹壁異常			1	腹腔鏡下人工肛門造設術	0	1
脳、脊髄の先天異常			1	人工肛門形成術	0	1

現状分析

- ・ 新生児科における入院稼働額は2017年度と比較して2018年度は▲26百万円減少したものの、2019年度には前年度と比較して+154百万円増加している。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院延患者数+4人/日の増加（新規入院患者数+5人/月の影響）ならびに入院診療単価+6,866円の増加（新規入院患者数+5人/月、平均在院日数▲1.2日、入院手術料+818千点の影響）が入院稼働額の増加に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「先天奇形、変形及び染色体異常」の増減率は2020年から2045年にかけて減少傾向であることが予測される。特に、2020年と比較した2045年の増減率は▲21.3%と大きく減少する見込みとなっている。なお、2045年における「先天奇形、変形及び染色体異常」の疾患別患者構成割合は0.2%となることが予測される。

- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「新生児疾患、先天性奇形」の当センターの入院患者数は患者シェアは山口・防府医療圏、診療圏および山口県内においては2位の患者受け入れ数となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は32人（+2人/月）、1日平均入院延患者数は25人（+2人/日）

⑮ 形成外科

		診療科	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額			
入院稼働額 (千円)		形成	414,184	389,081	384,976	1,106			
入院延患者数 (人/日)			新規入院患者数 (人/月)			平均在院日数 (日)			
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	
21	18	19	35	33	29	15.9	14.3	18.0	
入院診療単価 (円/人・日)			入院手術料 (千点/年)						
2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年				
54,362	60,718	56,283	13,270	13,098	11,589				
入院症例別件数・上位10位 (人/年)			2017年	2018年	2019年	手術件数実績・上位10位 (件/年)		2018年	2019年
皮膚の良性新生物			44	53	33	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) 等		126	105
皮膚の悪性腫瘍 (黒色腫以外)			24	21	31	分層植皮術		72	67
その他			32	22	24	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) 等		50	60
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷			19	32	24	皮膚悪性腫瘍切除術		28	45
顔面損傷 (口腔、咽頭損傷を含む。)			23	26	21	動脈 (皮) 弁術、筋 (皮) 弁術		19	40
糖尿病足病変			22	17	15	皮膚切開		50	38
膿皮症			15	10	13	デブリードマン		43	38
手足先天性疾患			16	11	12	眼瞼下垂症手術		47	34
閉塞性動脈疾患			6	10	12	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術		38	32
先天性耳瘻孔、副耳			9	7	12	四肢切断術		20	23

現状分析

- ・ 形成外科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて減少傾向であり、2019年度は前年度と比較して▲4百万円減少している。
- ・ その要因として2019年度の各KPI実績を前年度と比較すると、入院診療単価▲4,435円の減少（新規入院患者数▲4人/月、平均在院日数+3.7日、入院手術料▲1,509千点の影響）が入院稼働額の減少に繋がったことが考えられる。

外部環境分析

- ・ 入院医療需要において「筋骨格系及び結合組織の疾患」ならびに「損傷、中毒及びその他の外因の影響」疾患の増加率は2030年をピークに、2045年まで増加する予測となっている。
- ・ それぞれの2045年の疾患別患者構成割合を見ると、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は11.8%、「筋骨格系及び結合組織の疾患」は5.1%と高い構成割合を示すことが予測される。
- ・ 周辺医療機関における患者受療状況を見ると、「皮膚・皮下組織の疾患」の患者シェアは、山口・防府医療圏および診療圏では1位、山口県内では2位となっている。
- ・ また、「外傷・熱傷・中毒」の当センターの患者シェアは山口・防府医療

圏においては1位、診療圏においては2位、山口県内においては4位となっている。

今後の目標値

- ・ 1月平均新規入院患者数は31人（+2人/月）、1日平均入院延患者数は20人（+1人/日）

⑩ その他の診療科

診療科	入院稼働額（千円）			
	2017年	2018年	2019年	1症例当たりの診療金額
歯科	75,016	60,382	53,593	252
内科	46,661	59,940	134,515	841
内分泌	90,284	100,214	87,243	614
皮膚科	45,467	55,423	74,388	590
児外科	95,418	80,742	95,808	812
救急科	180,971	197,750	250,865	2,560
腎内	0	0	46,857	937
心外科	233,664	201,818	199,023	7,961
神経科	960	3,658	1,173	195
呼吸器	0	0	646	215
麻酔科	0	936	0	

	入院延患者数（人/日）			新規入院患者数（人/月）			平均在院日数（日）		
	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
歯科	4	3	3	17	13	18	6.6	6.2	4.3
内科	3.3	3.8	8.2	6	6	13	14.1	17.1	17.2
内分泌	6.6	7.0	6.0	14	14	12	13.5	13.6	13.1
皮膚科	1.2	1.5	2.6	7	8	11	4.2	4.3	6.2
児外科	2.2	1.9	2.2	12	10	10	4.3	5.0	6.2
救急科	5	5	6	8	10	8	18.8	14.2	19.7
腎内	0	0	2	0	0	4			17.9
心外科	3.0	2.8	2.3	2	2	2	20.4	25.0	22.3
神経科	0.0	0.4	0.1	0.6	0.4	0.5	1.1	27.4	2.8
呼吸器	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	12.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0.0	19.0	

	入院診療単価（円/人・日）			入院手術料（千点/年）		
	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年
歯科	46,710	53,721	45,611	2,032	1,412	1,326
内科	38,917	42,692	44,734	22	50	73
内分泌	37,292	39,315	39,983	77	135	176
皮膚科	100,148	101,881	78,057	0.0	14.8	18.9
児外科	120,023	118,390	120,211	4,372	4,458	5,085
救急科	105,277	115,711	123,457	3,004	3,712	6,034
腎内	0	0	55,518			352
心外科	213,978	194,617	238,351	15,593	13,265	13,015
神経科	53,333	25,761	55,857	0.0	0.0	1.6
呼吸器	0	0	43,067			
麻酔科	0	46,800	0	0.0	6.7	0.0

現状分析

- ・ 歯科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて減少傾向であり、2019年度では前年度差▲7百万円の減少（入院診療単価▲8,110

円の影響) となっている。

- ・ 内科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向にあり、2019年度では前年度差+75百万円の増加(入院延患者数+4.4人/日、入院診療単価+2,042円の影響)となっている。
- ・ 内分泌内科における入院稼働額は2017年度から2018年度にかけて増加したものの、2019年度では前年度差▲13百万円の減少となっている。
- ・ 皮膚科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向であり、2019年度では前年度差+19百万円の増加(入院延患者数+1.1人/日の影響)となっている。
- ・ 小児外科における入院稼働額は2017年度から2018年にかけて減少したものの、2019年度では前年度差+15百万円の増加(入院延患者数+0.3人/日、入院診療単価+1,821円の影響)となっている。
- ・ 救急科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて増加傾向にあり、2019年度には前年度と比較して+53百万円の増加(入院診療単価+7,746円の影響)となっている。
- ・ 腎臓内科は2019年10月より入院診療開始。また、同年に血液浄化療法センターを開設。
- ・ 心臓血管外科における入院稼働額は2017年度から2019年度にかけて減少傾向にあり、2019年度には前年度と比較して▲3百万円の減少(入院延患者数▲0.5人/日の影響)となっている。
- ・ 神経科における入院稼働額は2017年度から2018年度に増加したものの、2019年度では前年度差▲2百万円の減少となっている。

今後の目標値

- ・ 歯科では1月平均新規入院患者数は19人(+1人/月)
- ・ 内科では1月平均新規入院患者数は14人(+1人/月)
- ・ 内分泌内科では1月平均新規入院患者数は13人(+1人/月)
- ・ 皮膚科では1月平均新規入院患者数は11人(+1人/月)
- ・ 小児外科では1月平均新規入院患者数は11人(+1人/月)
- ・ 救急科では1月平均新規入院患者数は9人(+1人/月)